

市民活動団体と鎌倉市による協働事業
平成23年度実施分

事業評価

鎌倉市協働事業選考委員会

平成23年度に実施された協働事業の事業評価

《概要》

平成24年7月20日（金）午前9時30分から、鎌倉市役所402会議室において「市民活動団体と鎌倉市による協働事業実施報告会」（平成23年度実施分）を開催し、協働した団体及び担当課から各事業の結果報告が行われました。

その報告を受け、同日午後1時10分より「鎌倉市協働事業選考委員会」を開催し、それぞれの事業評価を行いました。

委員会における事業評価の内容は以下のとおりです。

なお、評価を行った委員会の委員は次のとおりです。

《鎌倉市協働事業選考委員会 委員》

委員長	志村 直愛	東北芸術工科大学 教授（所用により欠席）
副委員長	土屋 真美子	NPO 法人アクションポート横浜 理事
委員	渡邊 公子	特定非営利活動法人 鎌倉市市民活動センター運営 会議 理事長
委員	田畑 秀敏	公募
委員	小磯 一彦	鎌倉市市民活動部 部長

《実施事業》

1	鎌倉市落書きのないまちづくり事業	（3ヵ年実施）	2 P
2	子ども会館運営事業	（3ヵ年実施）	3 P
3	認知症相談事業	（1ヵ年実施）	4 P
4	障害者就労支援・雇用促進普及啓発事業	（単年度事業）	5 P
5	失語症等成人中途言語障害者への 地域コミュニケーション支援事業	（3ヵ年実施）	6 P
6	障害者就労支援員(ジョブサポーター)養成・派遣事業	（1ヵ年実施）	7 P

1 鎌倉市落書きのないまちづくり事業

★評価の高かった点

- ・多くの人たちとともにパトロールするなど、非常に苦勞され、落書きがほとんどないまちにしたというのは大きな効果である。
- ・実態調査や消去など、活動内容は良く、成果を上げている。
- ・鎌倉の落書きは書かれたら消すという活動で、落書き件数は顕著に減少しており、市内は美しいまちとなっている。

★評価の低かった点

- ・報告内容は条例や法体系に踏み込んだものであったが、事業の本来の目的をメインにした報告にした方が良かった。
- ・サービスの受け手を担い手にするという協働の本来の視点が足りない。
- ・団体と行政の間に意識の相違がある。

★今後に向けての課題点

- ・落書きを取り締まる条例を作ることが事業の目的なのか、どういうまちにしたいのか、協働事業の目的を再確認したうえで協働を進めていくべきである。
- ・落書きの対象物の所有者である企業（東電、JR など）の取り組みも必要である。
- ・市の役割、目的を明確にしていく必要がある。
- ・予算をより明確にするべきである。
- ・落書きのないまちは努力あってのことなので、市民への周知広報の充実が必要である。
- ・事業として継続させるための予算措置が必要である。
- ・ピークは7、8月なのでそのタイミングのみ強化することも考えられる。
- ・ゼロ状態を将来にわたって継続できる体制づくりが求められる。

《総体的な評価》

協働事業3カ年を終了し、団体の熱心な活動によって成果を上げている。

24年度からは環境保全課の事業として継続しており、今後も、事業目的・役割を団体・行政で共有し、事業継続していくことを期待する。

2 子ども会館運営事業

★評価の高かった点

- ・市民活動の良さを、公共の場所で協力して出そうとしたことは良く伝わった。
- ・毎月のイベントで、団体の特徴を活かした活動ができている。
- ・市民活動団体が公設の子ども会館運営を担ったことで子ども側に寄り添った運営がなされた。
- ・行事の参加者が増えたという結果が出たので、今後の運営について考える一助となると思う。
- ・協働の途上での意見交換で互いに理解を深められた。

★評価の低かった点

- ・様々な理由により、団体が目指すものを実現できなかった。
- ・制度上の問題から、指導員が重複して配置されるような形となり、費用対効果の面では効果を出せなかった。
- ・行事にかたよった活動になった印象があった。
- ・事業の目的や数値目標がないので評価が難しい。本事業では数値化できない成果が重要だと思うが、それが見えにくい報告だった。
- ・最初は団体と市とのコミュニケーションが十分ではなかった。
- ・最終年になり、ようやく協働の意義が出てきたが、もう少し早く相互理解が深まると良かった。
- ・目的と効果の明確化が必要である。
- ・事業提案の時点で事業内容、課題の整理が不足していた。

★今後に向けての課題点

- ・課題が明らかになったのは良いことなので、それを次の施策にどう生かすのかが課題である。
- ・本事業は終了したが、今後も協働による運営を望む。
- ・団体と市とで目的を共有することが重要である。
- ・会館の運営とイベント・行事は別の団体が担うことも考えられる。

《総体的な評価》

全体的に団体と市との間のコミュニケーションが不十分であった。コミュニケーションを十分とり、事業目的・役割を双方が共有できていれば、より高い成果が上げられたものと思われ、残念である。

3か年の最終年だったが、最終的には団体も市も納得、満足した形で事業を終えることができたことを評価する。

3 認知症相談事業

★評価の高かった点

- ・保健師も相談窓口に入るといって、それぞれの専門性を生かした相談が実現できている。
- ・元々の役割分担に沿った事業内容となっている。
- ・予算は適正である。
- ・参加者の満足度が高い。
- ・専門家による相談が行われるようになった良い事例となった。
- ・初期の目的を達成している。
- ・団体、行政双方が高評価である。

★評価の低かった点

- ・相談者が少ない。
- ・プロモーション活動のプランや話し合いが足りない。
- ・広報活動不足がある。

★今後に向けての課題点

- ・将来的には、いろいろネットワークを組んで効率良い相談窓口体制を作っていくことを望む。
- ・目標設定し、団体・市で共有して協働していくことを望む。
- ・集団相談やセミナーを拡充することを望む。
- ・より効果的な PR の方法を探る必要がある。

《総体的な評価》

団体と市とが目的を共有し、効果を上げている良い事例である。

今後 PR、広報の充実などで、相談者の増加、また将来的には県保健福祉事務所などほかの相談機関と連携して拡大を図ることができると思われる。

4 障害者就労支援・雇用促進普及啓発事業

★評価の高かった点

- ・イベント内容は非常に満足のいくものだったと思う。プロセスも丁寧にできていると思う。フォローアップを NPO から行っており、3 件企業訪問し、その後のフォローもできている。大変良い事例である。
- ・少ない予算でシンポジウムをしっかりと行ったといえる。
- ・テーマのたて方のセンスが良い（「マッチングの魅力」というタイトル）。
- ・7 回も事前打ち合わせをして団体と市の間でコミュニケーションが取れていたため、充実したシンポジウムになった。
- ・市の他の事業にも拡大できるのではないかな。

★評価の低かった点

- ・一見イベント目的のように思えたが、実はそうでなかった。報告の中で、本来の事業目的の達成度についても触れた方が良い。
- ・実際の企業参加や就労に結びつく形が少ないのが残念だ。
- ・実費負担だけでよいのか。
- ・看板、チラシに「協働事業」ということを謳っていなかった。協働事業であるということを PR していくべきである。

★今後に向けての課題点

- ・人件費を計上していないが、本来人件費も計上すべきである。
- ・シンポジウムの回数や認知活動の種類を増やしていくべきである。
- ・予算と役割を移譲して協働事業として確立しても良いと思われる。

《総体的な評価》

単年度事業であったが、事前打ち合わせを十分行い、団体と市でコミュニケーションが良く取れた成功例である。

今後、他の事業にも拡大できる可能性がある。

5 失語症等成人中途言語障害者への地域コミュニケーション

支援事業

★評価の高かった点

- ・非常に先進的な事業に取り組んでいる。内容も非常にきめ細やかで、アウトリーチ（直接出向いて行う支援）などにも取り組んでいる。
- ・実行動の回数と内容の質が高い。
- ・他団体や地域と連携している。
- ・全体的な動きや個別の動きを両方行っている。
- ・市の手の届かないところが救われた良い事例、間（はざま）を埋める事業である。
- ・実績を着実に重ねている。
- ・振り返りをしっかりとし、次年度に生かしている。
- ・市の事業として継続している。

★評価の低かった点

- ・もっと NPO がコスト意識をもっても良いのではないか。コストパフォーマンスが良すぎるくらいである。
- ・個別の満足度や経過状況を明らかにした報告にした方が良かった。

★今後に向けての課題点

- ・広報活動の役割分担やアクションプランを明確にする必要がある。
- ・市の事業となったので、今後も継続されることを望む。

《総体的な評価》

市だけでは手の届かなかった、まさに間（はざま）の事業であり、理想的な協働事業であった。きめ細やかにアウトリーチにも先進的に踏み込み、成果を上げている。事業費は安すぎるくらいの印象を受けるので、今後適正な計上がされるとなお良い。

6 障害者就労支援員（ジョブサポーター）養成・派遣事業

★評価の高かった点

- ・市はどうしても公平性を優先せざるを得ないが、NPOだからこそ寄り添うことができる。非常にきめ細やかにジョブサポーターが対象者に寄り添った活動をしており、とてもNPOらしい活動と言える。
- ・新しい仕組み作りにチャレンジしたことが評価できる。
- ・市民活動団体と市、それぞれが役割分担できている。
- ・団体、行政とも満足度が高い。
- ・市の職員と一緒に参加していることで、企業も安心感が持てる。また協働への理解が深まった効果もある。また事業展開もスムーズにできた。

★評価の低かった点

- ・実際に働く場が不足している。さらにPRし、ジョブサポーターの活用拡大を図っていけるとなお良い。
- ・人件費や交通費の計上があいまいである。
- ・活動の場の拡大が必要である。

★今後に向けての課題点

- ・他の団体と連携することで、シナジー効果が現れる。
- ・対象者が同じ他の事業との連携が図られるのではないかな。
- ・企業にとってもメリットがあることなので、将来的に企業から収入を確保して事業展開していくことも考えられる。
- ・目的と内容を明確にし、予算の明確化と事業計画の整備が必要である。
- ・ジョブサポーターの更なるレベルアップを望む。

《総体的な評価》

役割分担も明確で、NPOの特性を生かした事業である。また、事業の対象者（サービスの受け手）に対して寄り添って行われている、成果の高い事業である。

将来的に企業とのさらなる連携や、他の事業との連携も図れる可能性がある。